

営 農 情 報

令和2年7月8日発行

第22号

冷害危険期の水管理について

移植水稻の生育は平年並みに進行しており、「成苗ななつぼし」7月1日頃に幼穂形成期を迎えました。冷害危険期の水管理には下記事項に留意し、適正な栽培管理を行いましょ

○幼穂形成期から10日後の冷害危険期は次の水管理を実施しましょう。

- ・幼穂形成期後10日間は前歴期間とありますので10日後の冷害危険期に向け水深を徐々に上昇させましょう
- ・冷害危険期の目標水深は15cm、目標水温は21℃以上です。
- ・水位を一気に上昇させてしまうと水温が低下してしまう為、逆効果となるので注意しましょう。
- ・入水は夜間から早朝にかけて行い、日中は止水し、水温上昇に努めましょう。
- ・冷害危険期中は気温が13度以下になると不稔が発生する恐れがあります。

ワキの防止について

透排水性が不十分で稲わらを鋤込んだ圃場では、地温の上昇と共にワキによって根の健康が損なわれます。昨年は豊作年であることから稈が多いことが予想されますので、水の入換えや中干しによる酸素の供給を行い、根を健全に保ちましょう。

「いもち病」防除について

BLASTMにて7月2～3日にかけて「いもち病」発生好適条件が美唄・月形地区で揃いました。

「いもち病」の発生を予防する為、下記薬剤にて防除を実施し、発生防止に努めましょ

○「いもち病」に有効な防除体系

回数	薬 剤 名	使用倍率	散布液量 (L/10a)	使用回数	使用時期
1回目	ビームゾル	300倍	25	3回以内	収穫7日前まで
		1,000倍	100		
2回目	ダブルカットトレボン	1,000倍	60～200	2回以内	穂揃期まで
3回目	ブラシキラップフロアブル	1,000倍	60～150	2回以内	収穫14日前まで

※上記期間防除については「いもち病」防除の他に「カメムシ」防除も含まれます。

※「いもち病」の防除間隔は7日間が目安です。

ケイ酸質資材による追肥について

- ・ケイ酸質資材の追肥は幼穂形成期に入ってから7日以降に実施し、資材は「ゆめシリカ」又は「とれ太郎P」等を使用しましょう。
- ・ケイ酸質資材の追肥は増収・不稔減少・病害への抵抗力向上・タンパク低下の効果があります。

JAみねのぶ

営農販売課

TEL 0126-67-2334

FAX 0126-67-2803